

# 普及センター だより

## 環境にやさしい

### フェロモンを使った害虫防除

ネギ畑でビニールチューブのような物が先端に付いた棒が無数に立っている光景を見たことはありませんか？  
これはフェロモン剤というものでネギの害虫を防除する目的で立てられたものです。フェロモン剤を使用した防除法は、環境にも人にもやさしい技術として注目されており、山武郡市でも急速に使用面積が広がってきています。

#### フェロモンとは？

フェロモンは、同種の虫同士の様々なコミュニケーションをつかさどる重要な匂いで、人間でいえば言葉や文字にあたるものなのです。

#### フェロモンによる防除

この匂いを利用して害虫の防除を行うのがフェロモン防除です。

フェロモンにはいくつかの種類がありますが、主に農業では異性間で働く性フェロモンが利用されています。



性フェロモンは雌が出すフェロモンで、雄はこの匂いを頼りに雌の居場所を見

つけだします。

もし、これと同じ匂いを出す罠（トラップ）を仕掛ければ雄は一網打尽にされてしまいます。また、この匂いを畑に充満させれば雄は雌を見つけることができなくなってしまうです。どちらにしても子孫を残すことができなくなり農作物への被害が減るといわれています。

フェロモンは人や動物に対して無害なだけでなく特定の害虫のみに効くので他の昆虫や天敵への影響もほとんどありません。

また、フェロモンを使うことで農薬散布量を減らすことができるので、より低農薬な農作物を提供することが可能になります。

山武郡市では、平成12年度はネギ、さといも、大豆、その他野菜を対象に約240haの畑でフェロモンによる防除が行われ、環境にやさしい技術として期待も高まっています。

山武農業改良普及センター  
0475-5410227

## 麦の収穫はじまる

6月中旬、北清水地区の大区画ほ場で、大型汎用コンバインによる麦の収穫作業がはじまりました。

北清水地区では、基盤整備事業を契機として集団転作に取組んでおり、今年度から営農組合による、約26haの麦・大豆のブロックローテーション【3年4作（1年目：麦・大豆）↓

（2年目：水稲）↓（3年目：水稲）への取組みがはじまっています。

新たな取組みのため、品質・収量の確保や収益性などが当面の課題となっておりますが、今後、同組合では生産技術の向上や助成金等により事業の安定を図り、転作の定着化につなげたいと考えています。

